

EBHA／経営史学会合同会議に関するガイダンス

報告申し込み〔パネル・個別報告〕や参加を御検討の会員各位へ

2011年11月1日

経営史会会長 阿部武司

合同大会についての基本情報

- 経営史学会と、EBHA（European Business History Association）の合同大会は、すでにアナウンスしましたように、**2012年8月30日～9月1日**（初日は理事会のほか受付および簡易な Reception のみ、報告は31日～2日）にパリにて開催の予定です。
- EBHA は、1994年に欧州各国の研究者の協力により設立された国際学会です。同学会と過去の同学会大会に関する情報は、<http://www.ebha.org/>にて入手可能です。来年のパリ会議についての情報更新が遅れていますが、近日中に Call for Paper とともに掲載される見込みです。同学会での報告の主題は、例年、ヨーロッパ経営史に限られず、きわめて多様な地域・テーマについて、議論が行われています。
- 2012年の大会は、欧日両学会の合同大会となりますが、EBHA がホスト組織となっており、報告・参加その他大会事務全般について、**EBHA 側組織が窓口となります。経営史学会を経由して申し込む形ではありませんので、ご注意ください。**ただし、経営史学会が行う**若手向け参加助成制度**に関する事項を除きます。（下記参照）。
 - http://www.bhs-japan.org/bhsj/EBHA2012_1.pdf

会議と報告の申込み等、一般情報

- 会議言語——英語
- 統一テーマ: **Business enterprises and the tensions between local and global**
 - 個別報告、パネルの双方とも、上記テーマに直接関係しない研究であっても応募が可能であり、例年、多数のそうした報告が採択されていますが、なるべく統一テーマに近づけて下さい。
- 報告と参加
 - 報告の申込——**2012年1月15日**締め切りです。Call for paper については、近日中に Web 情報が更新される見込みですので、上記 Web サイトで最新情報を確認ください。申込みには下記二つの方法があります。
 - ◇ ①パネルの申込み: 複数名でパネルを組織し、パネルの Organizer が代表して行う。（詳細は下記のパネル応募の要領参照）
 - ◇ ②個別報告の申し込み
 - 報告の申込時に必要な書類については**上記 Web サイトで最終的にご確認ください**

さい。これまでの慣例ですと、①**報告タイトルと報告要旨（英文 400Words 以内, A4 で 1 枚）**, ②**A4 で 1 枚に収まる履歴書**（Curriculum Vitae. 略称 CV. 氏名・連絡先〔メールアドレス必須〕・所属・学位・研究歴・主要公刊論文・著書等）の 2 通の書類を、指定のメールアドレスに送信する形で申込みが行われてきました。

- なお、日本の経営史学会側での応募者情報把握のために、上記申し込み時に下記 iimukyoku@bhs-japan.org にも cc:にて送信ください。
 - 申請時の上記要旨（Abstract）は審査資料であり、下記予稿とは異なって、これまで Web 公開はされておられません。
 - 報告申込と大会参加の資格——**報告者でなくとも、大会への参加は可能**であり、また報告・参加のいずれも、EBHA 会員である必要はありません（ただし、EBHA 会員割引・早期申込割引が有ります）。報告者・参加者は、報告申込みとは別に **Registration** を行う必要があります。これは、開催の数ヶ月前から受付が開始される見込みです（参加登録受け付け開始時には、改めて経営史学会員には会員メーリングリストで通知する予定です）。
 - **採否結果**——申請された個別報告・パネルについては、日欧合同の **Science Committee** にて審査され、採否を決定の上、例年、3~4 月頃に通知されます（パネルでは代表者のみに通知が届きます）。
 - **Paper（予稿）の事前アップロード**——例年 **7 月末**が期限です。
 - ◇ EBHA の大会組織委員会では、例年、報告の基礎となる論文（予稿で結構です。申し込み時の Abstract とは違い、報告の内容を具体的に示すもの）の事前アップロードを強く勧奨してきました。同論文は Web 上のプログラムからのリンクの形で Web 上に公開されますが、あくまで予稿の扱いであり、各種のジャーナルや、**Working Paper** 等としての各種媒体への事前・事後の投稿を制約するものではありません。近年は事前アップロード者の比率が上がって来ており、2011 年のアテネ大会では、7 割超の報告について、事前アップロードが行われました。事例については、EBHA の Web サイトの過去の **Conference** プログラムからのリンクをご参照ください。なお、締め切り以降でも、大会主催校の判断でアップロードされる場合があります。
 - 参加費は、大会参加費とレセプション・会議期間中の昼食・最終日の晚餐会費が一体となったパッケージ方式です。参加費の払い込み方法については、**Registration** 時に Web 情報を確認してください。
 - 参加者には、現地で参加証明書が発行されます。
- 宿泊等
 - 順次更新される EBHA の会議関連 Web 情報において、情報提供がなされる予定で

す（参加者優待価格を設定したホテルの情報等）。手配は各人で行って下さい。

パネル応募の際の留意点、および、個別報告とセッションの関係

- 会議は例年、同一の時間帯（90分/120分）に、複数の会場（部屋）を用いてセッションを並立させて実施する形をとっています。〔2011年アテネ大会6会場、2010年グラスゴウ大会5-7会場、2009年ミラノ大会（米BHCとの合同大会のため、3日間の会議日を設定）6-7会場、2008年ベルゲン大会5会場〕。来年パリ大会でも、同様の形式となる見込みです（6会場、90分セッションが基本）。
- パネル組織者は、パネルの論題、報告者、司会、コメンテーター等を決定の上、申し込みを行います。通常は、①パネルの趣旨説明（A4で1枚、400Words程度）、②パネル・プログラム（報告者名と所属、報告タイトル一覧、および、司会、コメンテーターを示したもの。司会、Discussantについては、未定でも申し込みは可能）、③パネル組織者および各報告者の全員について、個別報告と同様の形式〔上記〕にて、報告要旨とCV、A4各1枚をひとまとめにした書類、の3点を揃え、応募する必要があります。
- 上記の時間枠（90分ないし120分）のため、通常、パネルの報告数は3本～5本程度（共著論文があれば報告者数はそれ以上）ですが、大規模なパネルの場合、2つの連続した時間枠〔90分×2、90分+120分、120分×2等〕が認められる場合があります〔Web掲載上のアテネ大会、Session20a/20bの事例を参照。申込み時に申請必要〕。
- なお、パネルにおいても、通常プログラム上は、Organizerの氏名は明示されません。
- 上記のように、大会統一テーマは、厳しい縛りではありませんが、当然ながら、統一主題に沿ったPanel Proposalは、優先的に採択の対象となる傾向にあります。
- 個別報告で申請・採択された場合には、大会組織者側でテーマ関連性の高い報告をパッケージ化し、上記の90分ないし120分のセッションとして、タイトルを付したうえでプログラムに割り付けします。その場合の司会・コメンテーター（選定しない場合もあります）は、大会組織者側で選定します。コメンテーターが置かれる場合には、個別報告の報告者は、事前に余裕をもって（Web上で明示がある場合にはその期日までに）、コメンテーターに報告内容を知らせる必要があります。

報告その他での留意点等

- 報告時間：報告時間はセッションの長短（90分/120分）と報告者数、司会・パネル組織者の判断により異なりますが、報告自体は通常18～20分程度と、経営史学会の半分以下となるのが普通ですので、ご注意ください。司会の判断にもよりますが、通常は、1セッション内では3～5本の報告を行った上で、残り時間でコメントおよびDiscussionが行われます。
- EBHAでは、通常、報告者が紙媒体で資料を配付することはありません。他方、パワ

ーポイントを用いない純然たる口頭報告も時折はみられますが、聴衆の半ば以上は、英語のネイティブ・スピーカーではなく〔欧州の非英語圏出身者が多数〕、視覚情報が重要な役割を果たすことにもご留意ください。

- 共著論文に基づく報告は、例年、3割を超えており、珍しくありません。(3名以上の著者による1本の共同研究報告、共著者のうち1名のみが参加して報告、という例も見られます)。

以上